

さんぽみち



発行 わがまち大田鶴の木地区推進委員会

連絡先
鶴の木特別出張所
3750-4241

子供たちに安心と安全、社会への信頼を与えていくために、全国的に「子ども一一〇番」や「SOS」等の事業がすすんでいます。

東調布第三小学校でも、昨秋より「子ども一一〇番」事業を、近隣の小学校と共にステッカーを作り活動を始めました。丁度その頃、大田区小学校PTA連絡協議会から、「一年越しに区長へお願いしていた『統一ステッカー』さらに『保険付き』という話が実現できそうだという情報があり、地域の皆様へのお願いは、その時期を待つことになりました。この度、「子どもSOSの家」事業が実現の運びとなり、校内PTA会員をはじめ、地域の皆様のご協力をいただきありがとうございました。

これからもよろしくお願ひいたします。

東調布第三小学校PTA会長

久保井 良実

子どもたちが、身の危険を感じた場合に、緊急に助けを求める事のできる場所、また、子どもたちの相談の場として「こどもSOSの家」を設置するものです。



このステッカーのあるところが「こどもSOSの家」です。

「こどもSOSの家」とは

こどもSOSの家がスタートします

嶺町小学校PTA会長

国分 徹

千鳥小学校PTA会長

印南 陽介

この度、「こども一一〇番の家」という名の下にPTAと地域と一緒に取り組んできた事業がこの度「大田区」主体の事業として「こどもSOSの家」として新たに発足致しました。呼び名は変わつても内容は今まで通り「我が町の子供は我が町の手で守る」地域が一体となり、子供達をターゲットにした卑劣な犯罪を一件でも少なく出来るよう是非ご協力を願います。前回同様に「ステッカー」を自立つ場所に貼つていただき、危険を感じた時にいつでも駆け込める場を多くの方々に提供して頂ければ幸いに思ふ次第です。

千鳥小学校では、平成十一年の秋に町会の協力を得て「こども一一〇番の家」が始動しました。現在まで、おかげさまで何事もなく無事に過ぎました。ご協力いただきています皆様、ありがとうございました。

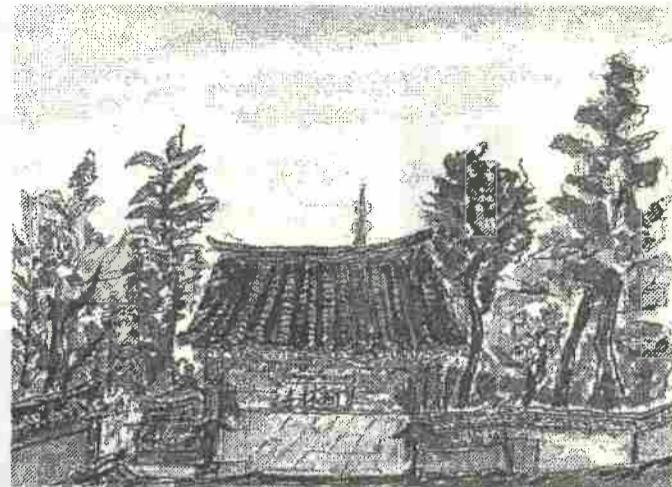
この度、大田区で「こどもSOSの家」の事業が発足し、新たに協力頂くわけですが、千鳥小学校PTAでは「一一〇番」と「SOS」の違いを協力者の方々にご説明にあがりご承諾を頂き、新たに始動いたします。

今後も、子どもたちにも、協力者にも何事もなく過ぎていくことを願いますが、いざ、子どもたちが保護を求めてきたときに、適切な対応をしていただけたために、この事業を推進していきたいと思います。

狐に化かされた昔出し

千鳥二丁目 倉方勝雄

昭和元年頃、叔父さんの結婚式がありました。その日の夕暮れ、母と姉と私は沢山のご馳走を重箱に詰めてもらつて、我が家に帰る道を急ぎました。まだ池上線は建設中で砂利や土が積み上げられ山のようになつていきました。帰り道、母は私の手をつなぎ、姉は離れて歩きました。畠や野原の細い道で街灯も少ないので、たまに車の明かりが見えていました。三回ほど歩く方向にすばやく走つていく獣が見えました。母が「狐が出るから急いで帰ろう」と云つたので、「さつき見たのは狐かなア」と聞いたら、母は「走が匂うから追つてくるんだよ」と云いました。



リレーエッセイ

ひとりはみんなのためにみんなはひとりのために

鶴の木二丁目 松本浩三

ひとりはみんなのためにみんなはひとりのために
鵜の木二丁目 松本 浩三

私は「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」という気持ちで生きたら良いと思ってる。ところが日本では理想どおりにはいかず公衆道徳など低い気がする。昔から日本人の心の中に「長いものにはまかれろ」「旅の恥はかき捨て」とかで、電車や公園、道路など人の集まる場所を無茶苦茶に汚し壊し、人の迷惑を考えない人が多いよう思えるのである。

さんほしてみませんか

千鳥一丁目 水野 敬司

歌

鶴の木二丁目

原田 シマ子

割り切つて生きていくべし
濡れて線路の光り冷たし
春風に

黄の色に燃える菜の花盛りなり
旅ゆく汽車の窓に飛び去る

吹きための落ち葉の上にうすくまる
子猫に私は何を言いしか

心に浸みぬ 人の温情

命みじかき 花を惜しみぬ

編集後記

人	男 10, 672名 女 11, 117名 計 21, 789名
口	
世帯数	10, 695世帯

子供達の元気な声を毎日聞いている私は大阪の小学校の惨劇に心底から怒りが込み上げてきました。これ程、恐ろしい犯行をどうしたら防げるのか真摯に考えさせられました。忙しいお父さん、お母さん、そして子供達も大変な時代です。私たちの小さな力でも、SOSの家が立派に育つよう地域の皆様のご協力を願つてやみません。

編集長 池田 進太郎